

MACC通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第48号

2019年3月29日発行

《主な内容》

- ・「荒川区地域産業活性化パートナー認定式」
- ・MACCセミナー「～中小・小規模事業者のための～背伸びをしないIoT活用術」開催
- ・新製品・新技術大賞にMACC会員企業が4社受賞
- ・連載：「知財経営のすすめ Vol.4 - 知財情報へアクセスしながら自分の強みを考える -」

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

区と山形大学、産学公金の連携体制を強化 信用金庫の“目利き人材”を「荒川区地域産業活性化パートナー」に認定

区と山形大学は、平成28～30年度に実施した「地域金融機関連携型課題解決支援事業」の「目利き（事業性評価）力向上講習会」を修了した荒川区しんきん協議会加盟の信用金庫の職員72人を「荒川区地域産業活性化パートナー」として認定しました。認定を受けたパートナーは、区が推進している産学公金連携ネットワークに連帯し、目利き力を活かした企業支援など地域産業の活性化に協力することにしています。

荒川区しんきん協議会加盟の5信用金庫の職員

この事業は、区と連携協力協定を結んでいる山形大学のノウハウを活用して、区内産業・企業と幅広い接点を持つ地域金融機関の目利き人材の育成を後押しすることで、地域課題の解決に向けた新たな産学公金ネットワークを構築し、区内産業・企業の活性化を促進するのが狙いです。

事業の柱となる「目利き力向上講習会」は、平成28年度から3年連続で実施しました。スタート当初から、区の中小企業融資を取り扱っている荒川区しんきん協議会加盟の5つの信用金庫の職員が参加し、実践的な講習を行いました。

企業の成長・改善プランを提案する力を習得
毎年度の講習会は、講義やグループワークを通じて、目利き力を養う要点を学びながら、実際に区内の協力企業を対象に、経営課題や将来性を分析し、その企業と共に

参加した地域金融機関 (荒川区しんきん協議会加盟)
朝日信用金庫
城北信用金庫
巣鴨信用金庫
瀧野川信用金庫
東京東信用金庫

成長・改善プランを創り出すという“共創”を実践するカリキュラムが特徴です。

3年間にわたって、山形大学学術研究院の小野浩幸教授が進行役となって講座全体の運営・指導に当たりました。

3年間の講習会で合計72人の“パートナー”誕生
平成30年度は、5信用金庫の25人が参加し、昨年6

～7月の4日間、目利き力を高める講義とグループワークを行いました。また、(株)タカハシ（東日暮里6丁目）の協力のもと、製造現場の調

査や経営者へのヒアリングを行い、創造的な企業成長プランを提案するまでのカリキュラムを修了しました。

これにより、参加者全員が目利き金融マンとして区内産業の活性化を促進する新パートナーに認定されました。

パートナー認定を受けた方々からは、「実践型の講習内容で、学ぶことが多かった」「地域金融機関のあるべき姿を探る機会となった」「金融マンとして営業活動の財産を得た」などの感想があり、その

区が認定した 「荒川区地域産業活性化パートナー」	
平成28年度	24人
平成29年度	23人
平成30年度	25人
計	72人

目利き力向上講習会の 協力企業（MACC会員）	
平成28年度	平和商事(株)(東尾久4)
平成29年度	(有)中央パフ製作所(町屋1)
平成30年度	(株)タカハシ(東日暮里6)

多くの方が「目利き力や提案力を高め、区内産業・企業の発展に役立ちたい」と強調していました。



区内産業・企業の活性化支援を期待

平成30年度認定の新パートナーと、西川区長（前列中央）ら

この3年間で、72人の「荒川区地域産業活性化パートナー」が誕生し、全国的にも異例の産学公金の連携体制が構築・強化されたこととなります。

認定式で、西川太一郎区長（特別区長会会長）は、「講習会で学んだ知見を磨き、“確かな目利きができるコーディネーター”として区内産業・企業への支援・協力を強めていただきたい」と述べました。

MACCセミナー 「中小・小規模事業者のための 背伸びをしないIoT活用術」

2月21日に「中小・小規模事業者のための～背伸びをしないIoT活用術」セミナーを開催しました。中小企業診断士の新木啓弘氏（株）インフォクリエマネジメント代表取締役）が生活分野やモノづくり現場の事例を紹介しつつ、中小企業が取り組めるIoT導入・活用策などを解説しました。

市販の機器で安価なIoT環境が構築できる！

はじめに、新木氏はIoT活用を図る中小企業経営の基本的視点として、国（経済産業省）が描く未来像「新産業構造ビジョン」に示される3つのキーワードを挙げました。

超スマート社会（あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、生き活きと快適に暮らせる社会）

第4次産業革命（IoT、ビッグデータ、AIなどを利活用した技術革新）

コネクテッド・インダストリーズ（人・組織・機械・技術・国家がつながり、新たな付加価値が創出される産業社会）

をイメージして、「IoT(Internet of Things)とは、パソコンやスマートフォンに加えて、自動車や家電など様々なモノがインターネットにつながる」と前置きしました。



セミナーでは様々な事例が紹介されました



講義する新木氏

現在すでに、IoTを支える多様な技術が利活用されており、センサー技術の高度化や大量データを処理するプロセッサの小型化、クラウド環境や無線通信技術の普及など様々な技術が重なり合って、「IoTの実用化が急激に進んでいる実情にあ

る」と指摘。

中小企業も既存のIoT技術を取り込んで、「例えば、シングルボードコンピュータと高精度センサーを用途に応じて組み合わせて安価なIoT環境が構築できる」とし、無限大の機器をインターネットに接続できる現状を踏まえて、「市販のセンサーを用いてデータを収集し、ネットワークにより統合して処理することで、作業や状況の分析を行い、付加価値の高いサービスや効率的な業務運営に活用するとともに、IoTによって集められたビッグデータをAIで分析し、新しいサービスにつなげることも可能」などと解説しました。

IoT活用事例と構築のステップ

また、身の回りの生活分野で進展しているIoT活用の事例として、「窓の振動で異常を通知するセキュ

リティーシステム」「視聴時間を決めて子どものテレビの見過ぎを防ぐ方法」「毎日の習慣をボタン一つで発信し、健康管理をサポートするシステム」「子どもの帰宅時間をお知らせする方法」などを例示。モノづくり分野の事例では、「設備・機械コントロールシステム」「稼働監視システム」「生産の見える化」「人が高付加価値の仕事に注力するレシ

ピ」なども動画を使って説明を加えました。

実際に、IoTを導入するに当たり押さえておくべきこと(表参照)を示したうえで、経営戦略との整合性からプロジェクト体制の構築、社内業務フローの作成、管理方法の標準化、ネットワーク環境の構築、IoT機器導入、収集データの活用、システム拡大までのステップを提示。

さらに、IoTをビジネス展開する場合は、「商品を作る前に顧客を見つけること、想定する顧客のニーズに込んでいるかアイデアを検証すること」を促し、IoT機器はネットに接続されているので、「セキュリティ対策への気配りは欠かせない」とアドバイスしました。

最後に、IoT導入に活かせる国の補助金・支援策についても説明がありました。

IoT導入に当たり押さえておくべきこと

- ・社内インフラが整備され、システム管理者(兼務可)がいるか。
- ・現場の課題は明確になっているか。
- ・自社成長の方向性と整合性が図られているか。
- ・社内の賛同がえられているか。
- ・社長の他に社内で旗振り役がいるか。

第4回新製品・新技術大賞にMACC会員企業4社が受賞

平成24年度から隔年で行われている「第4回荒川区新製品・新技術大賞」で、MACC会員企業4社が受賞し、3月12日(火) サンパール荒川において表彰式が行われました。

平成24年度より隔年で開催されている「荒川区新製品・新技術大賞」は、区内中小企業が自ら開発・実用化した市場発表又は販売後3年以内の製品・技術の中から優れたものを表彰し、販路拡大に向けた支援を行うことにより、モノづくりの街“あらかわ”の振興へ繋げる事を目的としています。

4回目となる今回は、平成30年7月～10月までの募集期間を経て、19社19件の応募がありました。厳正な審査の結果、最優秀賞(荒川区長賞)1件、優秀賞3件、入賞4件の計8件(うちMACC会員企業4件)の受賞が決まりました。下記に4件のMACC会員企業受賞製品をご紹介します。

§最優秀賞(荒川区長賞)§

旭モーディング株式会社(東尾久5)

製品名：積層成形ブロック L-CUBE

概要：プラスチック製品の試作で使われる切削用板材はほとんどが汎用材料で、材料の全てをカバーすることは難しく、評価の精度に課題がありました。

この製品は特殊



な射出成型技術を用いた積層状のプラスチックブロックで、量産予定のプラスチック材料で肉厚の切削用材料を提供でき、汎用樹脂からエンブラ、スーパーエンブラまでブロック化が可能となります。今後、自動車部品や医療用部品、電子機器用部品等多くの分野での活用が期待されます。(平成30年度MACC発新製品認定)

§優秀賞§

精電舎電子工業株式会社(西日暮里2)

製品名：超音波溶着機 SONOPET J

概要：超音波で樹脂や金属などを短時間で溶着・接合等の加工を可能にする装置です。最大の特長は、1台で2種類の周波数帯を持ち、世界で初めて周波数帯の切替を可能としたことです。これにより汎用性が飛躍的にアップしました。



さらに、産業用

ネットワーク等への接続も可能であるため、大容量の制御用・監視用・溶着結果等のデータを高速かつ広範囲に通信することが可能となります。この製品

導入による稼働率の向上、品質改善、管理工数の削減等、生産性の向上が期待されます。

低コストで製造できます。

§ 入賞 §

株式会社アポロ製作所(西日暮里1)

製品名：美濃素焼き 吸水コースター

概要：独自の印刷技術を活用した素焼きの吸水コースター。従来の印刷では、素焼きの表面にインク膜が張り、印刷した箇所が吸水できないため、全面にデザインを施すことができませんでした。



この製品は、インクが素焼きの吸水部分を塞がない特殊な印刷技術で、全面にデザインを施すことが可能となります。

転写ではなく、ダイレクトに印刷を施

しているため、繊細な写真・イラスト・グラデーションを高画質で印刷することができます。

また、顧客のオリジナルデザインを少量枚数でも

高六商事株式会社(西日暮里2)

技術名：再生炭素繊維複合材の製造方法

概要：炭素繊維強化プラスチックは、軽量で機械的特性に優れているため航空機や自動車、建築等の幅広い分野で利用されている一方、炭素繊維強化プラスチックを含む成形体廃棄物(廃炭素繊維強化プラスチック)の処理が問題となっています。

この技術は、廃炭素繊維強化プラスチックから熱分解法で得られる再生炭素繊維とプラスチックをよく混ぜ練り合わせて、再生炭素繊維複合材を製造するものです。

この再生炭素繊維複合材は、多くの分野での利用



が可能だけでなく炭素繊維強化プラスチックのリサイクルにつながるため、環境への負荷を大幅に減らすことが期待されます。

荒川区製造業等経営力向上支援事業補助金

平成31年度より新たに「製造業等経営力向上支援事業補助金」が創設されます。(詳細のお問合せやリーフレットをご希望の方は、経営支援課までご連絡ください)
(MACC会員には4月中旬ごろに郵送予定。)



補助名	補助内容	対象経費	補助・利用内容
① 生産性向上設備投資補助	区内で5年以上、製造業等(商業又はサービス業を除く)を営む中小企業者 生産活動、販売活動、役務提供活動その他収益を得るために直接的に必要な設備の設置	設備の購入に要する経費	対象経費の4分の1(限度額100万円) ※20万円以上のもの
② 女性活躍環境整備補助	女性が働きやすい職場環境を整備するために必要な設備の設置	環境整備に要する経費	対象経費の4分の1(限度額100万円) ※20万円以上のもの
③ ICT導入補助	ICT技術を用いて、販路拡大に繋げるために必要なシステムの構築及び会計・人事・総務システム等の導入	システム導入等の初期導入経費	対象経費の4分の1(限度額20万円) ※5万円以上のもの
④ 小規模事業者設備等更新補助	区内で10年以上、製造業等(商業又はサービス業を除く)を営む、従業員数20名以下の小規模事業者 生産活動、販売活動、役務提供活動その他収益を得るために直接的に必要な設備の更新	設備の購入に要する経費	対象経費の4分の1(限度額100万円) ※20万円以上のもの

※受付期間:①4月から翌年2月迄で毎月1日~15日(15日が閉庁日の場合は空閑日、最終受付日2020年2月17日(月))。

②~④随時(設置・支払いをする前3週間前まで)

※これら補助金は、事前申請制となります。ご利用の際は予めご相談ください。

※経営革新計画の承認等による特別(補助率・限度額のアップ)があります。詳細はお問合せください。



平成31年度版「荒川区 企業支援メニュー」が出来ました。経営支援課での補助金・セミナー等役立つ情報が一目でわかります。是非、ご利用下さい。
ご希望の方は、経営支援課までお問合せください。
(MACC会員には4月中旬ごろに郵送予定。)

「サンアス会活動報告」

1月度の講義テーマは、経営者のみならず、従業員ひとりひとりが身につけるべき能力である、「リーダーシップ」でした。中でも、比較優位やチームビルディング（仲間が思いを一つにして、一つのゴールに向かって進んでゆける組織づくり）のテーマに興味を持っていただき、特に、チームビルディングについては、メンバーからもう少し知識を深めたいという声も多く聞かれました。



3月度は、新ニアス会、サンアス会の合同例会を開催し、職人技が冴える外観・密着の良い厚付けめっき技術を得意とし、独自のめっき液を開発し、全工程を手作業で行い、安心して高品質なめっきを提供していらっしゃる日本電鍍工業株式会社（埼玉県さいたま市）を訪問しました。「機美共存」をモットーに、経営者に必要なのは、未来を見る目と決断力であると言われる伊藤麻美社長と入社5年目の今井美紀里さんから、会社紹介と工場のご案内をしていただきました。

会社紹介では、現状の業務内容とともに、海外でラジオのDJや宝石鑑定士という全く違う人生の道を歩んでいた伊藤社長が、予想もしなかったお父様の急死に伴う会社の経営破たんのために自宅の売却と引越しのために帰国したことにより、倒産寸前の会社にかかわることになった経緯、そこから伊藤社長ならではの着眼と行動力により、社長就任後まもなく黒字化を実現し、結果として事業承継を成功させた一連のお話を伺いました。

工場見学では、めっきの工程や検査現場などの作業について、今井さんからていねいにご説明いただきました。中でも、シルバー色が見事に金色に変わる瞬間には、参加メンバーから感嘆の声が聞かれました。

最後の質疑応答では、参加メンバーがそれぞれの立場から熱心にほぼ全員が質問をし、伊藤社長もありのままを丁寧に答えてくださいました。

特に、女性社長としての苦労話には、サンアスのメンバーも熱心に聞き入り、参加者全員のメモを取る手が休む間もなく動いていました。

新ニアス会、サンアス会メンバーが絶賛していたのは、会議室の廊下に張り出してあった「個人目標管理シート」です。写真付きで各自業務目標と自己啓発目標について、何を、どの程度、いつまでに、の項目について、年度初めに作成し、逐次振り返ります。たとえ、目標が達成できなかったとしても、努力することに意義があり、努力を続ける人は評価が高いそうです。その他、一部の事務従事者を除くすべての業務従事者の立ち仕事の実践にも驚き、来訪者への明るく元気な挨拶、人材育成の方法、充実した社内イベントの開催など、見習うべきたくさんのおみやげをいただきました。





知財経営のすすめ Vol.4 - 知財情報へアクセスしながら自分の強みを考える -

今回は、顧客の立場に立って自社が提供する技術、製品、サービス等が本当に自社の“強み”になるかどうか考えることが必要、という話をしました。顧客が求める価値には、“機能的価値”や“心理的価値”がありますので、自社に対し、顧客がどのような価値を求めているのか知ること、自社技術、製品、サービスの“機能的価値”や“心理的価値”を考え、顧客へ伝えていくことの重要性を学びました。

そして、自社の“強み”は、競合他社との関係で評価されることから、自社技術、自社製品、自社サービスについて、特許情報プラットフォーム (<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BtmTopPage>) という無料データベースで知財情報を検索してみたいというご提案も致しました。

今回は、この特許情報プラットフォームについて、もう少しご説明したいと思います。特許情報プラットフォームは、通称“J-PlatPat”(「ジェイプラットパット」と読みます。)と言い、上記URLや通称名を検索することにより、トップページに辿り着きます。

このデータベースは、特許、実用新案、意匠、商標という知的財産分野の情報が収録されており、特許や実用新案は技術的な情報、意匠は物品の外観デザインの情報、商標はネーミングやロゴマーク等の情報を指し、誰でも自由にこれらの知財情報にアクセスできます。

特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)のトップページにいくと、これらの知財情報の簡易検索ができます。この簡易検索の画面で、調べる情報の対象(特許、実用新案、意匠、商標)を選び、そのキーワードを入力することにより、簡易検索ができます。例えば、自社技術、自社製品、自社サービス等に活かされている技術をキーワードとして入力し検索してみます。

自社が金属加工を行っている場合、“金属加工”をキーワードとして特許・実用新案を調べてみてください。件数が多すぎて結果が表示されない場合が

あります。このような場合は、検索条件を変更、追加する等して再度検索してみてください。特許・実用新案等の技術的な情報を調べる場合は、一つのキーワードでは、件数が多すぎて検索できないことが通常ですので、複数のキーワードを組み合わせて調べていきます。

一方、自社技術、自社製品、自社サービス等のネーミングをキーワードとして商標を調べてみてください。キーワードとして入力した文字を含む商標が検索できます。また、デザインを調べる場合は、そのデザインが使用される物品名をキーワードとして入力し、意匠を調べるとデザインが表された図面や写真を調べることも可能です。

このような知財情報にアクセスすると、自社の“強み”と思っていた技術、デザイン、ネーミング等について他社から既に同じようなものが出願・登録されていた、ということも多くありますが、知財情報を調べる時に注意することがあります。特許については、特許出願後1年6か月経過した段階でその情報が公開されますので、現在アクセスしているのは1年6か月前に出願された情報となります。実用新案や意匠は登録後でなければ情報が公開されず、商標については出願後約1か月経過後と登録後に情報が公開されます。

このように調べる対象によって、いつ公開された情報なのか、注意が必要ですが、自社の“強み”を深掘りしていくのに他社の知財情報は有益な情報となります。現在開発中の技術が既に他社から出願されている、ということでは、自社の“強み”とはなり得ないため、開発後に検索するのでは遅くなってしまいますので、開発と同時進行で知財情報も調べていく、というスタンスが知財経営では必要です。

著者略歴 押久保政彦(おしくぼまさひこ)

弁理士 / 知財経営コンサルタント / 1級知財管理技能士 (特許、コンテンツ、ブランド)。

2005年 弁理士登録

2015年 博士(技術経営)学位取得
押久保政彦国際商標特許事務所 所長
関東経済産業局、特許庁事業 知財専門家



連載～その30～

牛山博文の 毛～ひと工夫！



MACCミドルコーディネータ
牛山博文

MACCプロジェクトでは4名のコーディネータによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネータによる生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。

「組織運営」と「経営の要素」

今回は「組織運営」と「経営の要素」についてお話ししていきます。

効率的なモノづくり組織の運営について

何人かの人が集まってモノづくりをする場合を考えてみましょう。まずは、モノづくりの“準備”を担う人が必要になります。たとえば原料や材料を集める仕事です。これを専門に行う人を決めると効率的になりますね。また資金を調達して、集めた資金で原材料の購入代金を支払ったりする仕事も、それを専門に行う人を決めると効率的になります。



さらに、機械を使用して材料を加工する場合も加工の内容によって専門の作業者を決めて、その加工に専念したほうが効率的になります。

このようにしてモノづくりを効率的に行なうために必要な何人かの集団、すなわち組織ができてきます。

多くの組織は一人で行うよりも組織で行った方が多くの利益が得られることを期待して作られます。このような期待が込められているので、うまく運営していくことが重要になってきます。

うまくとは“スムーズにモノづくりが進むこと”と考えれば、必然的に組織をうまく運営するための専門家も必要になってきますね。モノづくりのため

の組織をうまく運営するための専門家が生産管理部門とすることになります。

経営の三要素（計画・実行・統制）

経営とは「やりくりすることだ」と言われます。毎日駆けずりまわって“やりくり”している経営者の姿が目につかびます。しかし経営者が駆けずりまわってばかりだと、新しいことができません。製品開発や工場建設など未来につながる新しいことを行うには、事前にじっくり考えて周到な準備をしておくことが必要です。



じっくり考えるということは“計画をたてる”ということです。事前にじっくり考えて計画を練り、周到な準備をして実行に移していきます。

実行に移したら、それが計画どおりに進んでいるかどうか“チェック”する必要が出てきます。計画どおりでなければ、何とか計画どおりになるように“やりくり”します。

必要であれば計画を修正していきます。このように計画どおりに進んでいるかチェックし、進んでなければやりくりし、または修正することを“統制”と言います。モノづくりに限らず経営は計画・実行・統制が重要な3つの要素になります。



今回はこの3要素についてもう少し詳しくお話ししましょう。

MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL.47



『荒川経営者塾物語』



MACCシニアコーディネータ 豊泉光男

4月からの新年度を迎えるにあたって、MACCの経営者塾をご一緒に振り返ってみましょう。

最初の設立は「あすめし会」でした。平成19年5月にMACCにトミーコーディネータ初就任でした。

初年度は無我夢中でしたが、会員の皆さんの情熱のお蔭で（フェレット・セラウッジ・セラベルト等）いくつもの新商品が開発されました。その中で、若手企業後継者の活躍は目を見張るものがありました。そこで生まれたのが、あすの自社の飯の種の開発を目指す。あすの社長を目指す。若手後継者の会「あすめし会」が平成20年8月スタートしました。最初は8社、最初の講師は谷口CD、途中からトミーにバトンタッチ、3年後に15社の全経営者が卒業し、自主運営「あすめし会」遠藤会長、牛山CDがサポートしています。現在、会員募集中です。

二番目は「新ニアス会」です。当初は、平成25年4月にあすめし会と同様、若手後継者の経営者塾として「ニアス会」がスタートしました。その後、3年間を経て平成28年から自主運営になるのをきっかけに、日本の明日を生き抜く経営者の会「新ニアス会」として再スタートしました。年齢にこだわらず、最高齢は80代の経営者も参加しています。今年度までは2か月に1度の活動でしたが、来年度から、長谷川会長及びトミー塾長を中心にONLY ONE企業を目指して月1回活動します。現在、会員募集中です。

三番目は「サンアス会」です。平成28年秋にスタートしました。自立した女性経営者を目指す自社の経営トップの参謀になる 魅力ある事業を開発する 信頼できる人生の友としてのネットワークを創設する やさしい“陽ざし”をお客様・社員・

関係者に注ぎ続ける、をモットーに、二か月に一度、午前中に、中村塾長を中心に活動しています。現在、会員は5名です。会員募集中です。

経営者塾を振り返ると様々な課題を克服して今日があると言えます。1、参加会員の募集と例会出席には主催者、会長、塾長の多くの熱意とたゆまぬ努力が必要でした。しかし、その成果は会員の経営者としての成長、新商品開発の成功、信頼のネットワークの創出と大きな果実を生み出すことができました。2、会員は講師から学ぶだけでなく、参加者、他社訪問等で他者からの刺激、学びで自己、自社を見つめ、自らのアイデンティティを見つめ直し、ONLY ONE企業への道を切り開くことに大いに役立ちました。3、企業のトップは多忙であると同時に孤独な存在です。ビジネスの最前線は競争のレッドオーシャンです。その中で無心で語り合える友との巡り合いはまれです。互いの人生の最後までを約束する関係は心の休息の場づくりと言えます。4、これからの会員の皆さんには 物まねでないONLY ONE企業を目指す。少しづつ毎年、増収増益企業を目指す。成長企業から中堅企業を目指す。を目標に頑張ってください。感謝。



<発行> 荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係 MACCプロジェクト事務局

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

登録番号(30)0002-04号